

## 男子第一部

男子第1部は、社長の宗岡正二新会長の就任大会を優勝で飾りたい昨年の覇者新日本製鐵、故山口信夫前会長の御霊に優勝旗を捧げたい旭化成、そして昨年の雪辱を果たしたい日本中央競馬会、この強豪3チームによる熾烈な戦いを繰り広げた。

### 第1回戦

東芝 5 - 0 まるや接骨院

(先鋒) 志村 優太 3段	⊖ (すくい投)	笠原 丈幸 4段
(次鋒) 鈴木 盛将 2段	⊖ (小外刈)	明先 俊太郎 3段
(中堅) 奥井 真也 3段	小内刈	高田 薫識 3段
(副将) 久米川弘文 2段	総合勝	千葉 満仁 3段
(大将) 當眞 和季 3段	横四方固	延島 竜秀 3段

九州電力 1 - 4 ALSOK

(先鋒) 近藤 雅和 3段	(指導3) ⊖	熊代 佑輔 3段
(次鋒) 山本 泰三 3段	大外刈	今井 敏博 4段
(中堅) 川野 達也 3段	(指導3) ⊖	小林 大輔 3段
(副将) 森 俊介 3段	縦四方固	生田 秀和 6段
(大将) 尾本 裕也 4段	小外刈	田中 康介 4段

東レ滋賀 1 - 3 京葉ガス

(先鋒) 田村 真我 2段	合せ技	河原 正太 4段
(次鋒) 角 明則 2段	引分	市川 裕治 4段
(中堅) 青木 和明 3段	優勢勝 ⊖	紺野 大輔 4段
(副将) 黒澤 平 3段	引分	須藤 紘司 4段
(大将) 沼田 康弘 2段	背負投	花本 隆司 3段

日本通運 0 - 5 了徳寺学園

(先鋒) 英 剛太郎 3段	払腰	佐藤 大地 3段
(次鋒) 河野 勇人 3段	合せ技	穴井 亮平 4段
(中堅) 大熊 将史 3段	腕緘	佐藤 武尊 5段
(副将) 日當 将人 3段	横四方固	森本 翔太 5段
(大将) 濱端 洋益 3段	小内刈	西村 久毅 4段

第2回戦

新日本製鐵 3 - 1 東芝

(先鋒) 齋藤 俊 3段	総合勝	當眞 和季 3段
(次鋒) 川端 恭平 3段	引分	鈴木 盛将 2段
(中堅) 森田 祥一 4段	内股	奥井 真也 3段
(副将) 武田 茂之 3段 ⊖	優勢勝	志村 優太 3段
(大将) 吉永 慎也 4段	横四方固	久米川弘文 2段

旭化成 A 3 - 2 ALSOK

(先鋒) 木村 純 3段	(大外刈) ⊖	生田 秀和 6段
(次鋒) 大鋸 新 5段 ⊖	(指導3)	今井 敏博 4段
(中堅) 増淵 樹 3段	内股	小林 大輔 3段
(副将) 西潟 健太 3段	(大内刈) ⊖	法兼 真 5段
(大将) 高井 洋平 4段	内股	熊代 佑輔 3段

日本中央競馬会 1 - 0 京葉ガス

(先鋒) 立山 広喜 4段	引分	須藤 紘司 4段
(次鋒) 鈴木 龍 4段	引分	河原 正太 4段
(中堅) 石井 竜太 4段	引分	手塚 龍大 3段
(副将) 片淵 慎弥 4段	横四方固	林 立峰 4段

(大将) 山本 宜秀 4段 引分 花本 隆司 3段

旭化成 B 3 - 2 了徳寺学園

(先鋒) 田中 貴大 3段	縦四方固	森本 翔太 5段
(先鋒) 出口 雅樹 3段 ⊖	優勢勝	佐藤 大地 3段
(中堅) 海老 泰博 3段	優勢勝 ⊖	西村 久毅 4段
(副将) 野田 嘉明 3段	優勢勝 ⊖	穴井 亮平 4段
(大将) 垣田 恭平 3段 ⊖	優勢勝	佐藤 武尊 5段

### 準決勝戦第1試合

準決勝戦第1試合は、3週間前に行われた西日本実業柔道団体対抗大会男子第1部準決勝戦の再現となった。新日本製鉄は大黒柱の高橋を負傷で欠き、大型選手を並べた旭化成Aに比べ体格で下回る選手が多く、両者の戦いぶりも興味を抱かせたが、新日本製鉄の軽いクラスの選手が旭化成Aの大型選手の攻撃をよくさばいて得点を許さず、森田の一本勝ポイントを守り切って、3週間前の雪辱を果たした。

新日本製鉄 - 1 旭化成A

(先鋒) 西山 将士 4段	引分	大鋸 新 5段
(次鋒) 森田 祥一 4段	払巻込	木村 純 3段
(中堅) 武田 茂之 3段	引分	西潟 健太 3段
(副将) 吉永 慎也 4段	(指導2) ⊖	高井 洋平 4段
(大将) 齋藤 俊 3段	引分	塘内 将彦 5段

先鋒戦。体重差45kgの両者の先鋒戦。大鋸は両襟を持って、右から内股、払腰を仕掛けるが、西山は右引手で大鋸の左袖を握り、左釣手を巧みに操り、左自然体でさばく。中盤までは大鋸の攻勢が続くが、西山は巧みな試合運びでポイントを与えず。疲れのせいか中盤過ぎになって攻撃が止まり、西山の体落、大外刈で受けに回った大鋸に、3分47秒指導1。大鋸は、その後再び攻勢に出るが、西山は難なく受け流して引分。

次鋒戦。森田左組み、木村右組み、大型選手同士の戦いであるが、上背で上回る森田が前に出て、木村に圧力を掛ける。開始24秒組み合わない木村に指導1。その後、互いに引手を奪い合う中、左釣手を木村の右釣手の上から前襟をしっかりと握った森田が、意表を衝いて右腕で木村の右釣手を抱えて強引な大外刈を仕掛け、木村がこれを堪えるところ、体を捨て左斜め前に巻込むと、木村はたまたらず背中から倒れて1分44秒、一本。

中堅戦。武田対西潟の戦いは先の西日本実業柔道団体対抗大会準決勝戦副将戦の再現。この時は武田が一本背負投で有効を取ったところを巧みに押さえ込んだ西潟が逆転勝利したが、この時の教訓からか武田は西潟に隙を与えず、リードしているためか敢えて無理をせず。時折、右背負投、左袖釣込腰、腕返で西潟を翻弄。一方の長身西潟は大外刈を試みるが小兵の武田を捉えきれず引分。

副将戦。吉永と高井の対戦は第55回（於、兵庫県立武道館）における決勝戦の先鋒戦以来。この時は、逃げる吉永を高井が追い込んで、大外刈一本で仕留めたが、今回は高井に往年のスピード感溢れる柔道が見られず、パワーに頼って吉永に圧力を掛け、1分36秒と3分30秒に指導を奪うにとどまる。

大将戦。1対1、内容差によって新日本製鐵のリードで迎えた大将戦。ここはベテラン塘内が何としてもポイントを上げて逆転したいところ。共に右組み、一回り大きい齋藤は上から圧力を掛ける。塘内は組み際に右背負投、右一本背負投を放つが、塘内の戦法を心得た齋藤はこれを潰し、寝技で時を稼ぐ。2分19秒には押され気味の塘内に指導1。終盤、共に寝技で一瞬押さえる場面も、すぐ解けてポイントにならず。塘内、得意の袖釣込腰も不発に終わり引分。新日本製鐵が昨年に続き宿敵旭化成Aを降し決勝戦へ駒を進める。

## 準決勝戦第2試合

準決勝戦第2試合は、体格で上回る日本中央競馬会の大型選手が期待通りの活躍で旭化成Bを一蹴、昨年、一昨年に引き続き3年連続決勝戦に進出した。

日本中央競馬会	3	-	0	旭化成B
(先鋒) 山本 宜秀	3段	引分	出口 雄樹	3段
(次鋒) 石井 竜太	3段	大外刈	海老 泰博	3段
(中堅) 鈴木 龍	4段	引分	垣田 恭平	3段

(副将) 立山 広喜 4段 小外刈 野田 嘉明 3段  
(大将) 片淵 慎弥 4段 ⊖ (指導3) 田中 貴大 3段

先鋒戦。山本左、出口右のケンカ組手。双方なかなか引き手が取れなかったが、両者指導1の後、山本が2分30秒に一瞬の引手を取り、左内股で有効を奪う。3分には出口が山本の技を右小外刈で返して有効。その後も引手の攻防が続き、時間。

次鋒戦。開始早々、石井が長身を利用して場外際で大外刈を掛けるも決まらず。海老はやや膝を痛めた様子。その後の44秒、石井、踏み込んでの大外刈で一本勝。

中堅戦。鈴木、体格を利用して圧力をかける。垣田盛んに左背負投。鈴木はそれをつぶして寝技で攻めるも決め手なし。4分30秒鈴木に指導1。そのまま時間で引分。

副将戦。長身の立山、左釣手で野田を制し、25秒強力な左小外刈に野田は横転、立山貫禄の一本勝。

大将戦。体重38kgの体格差を利用して片淵、田中に圧力をかけ続ける。右手で田中の左袖口をがっちり掴んで攻めるも決め手なし。1分40秒田中に指導1。3分15秒には田中に2つめの指導。4分30秒には両者指導を受け、時間。田中指導3回、片淵指導1回で片淵の優勢勝。

## 決勝戦

男子第1部決勝戦は、昨年と同じ対戦となった。昨年の新日本製鐵優勝の立役者となった高橋が負傷欠場し新日本製鐵の連覇が危ぶまれたが、宗岡新会長が見つめる中、主将の吉永が獅子奮迅の活躍で31度目、昨年に続く優勝を新日本製鐵にもたらした。

新日本製鐵 代 - 1 日本中央競馬会

(先鋒) 西山 将士 4段 引分 立山 広喜 4段  
(次鋒) 武田 茂之 3段 出足払 石井 竜太 4段

(中堅) 森田 祥一 4段	引分	片淵 慎弥 4段
(副将) 吉永 慎也 4段	崩袈裟固	佐藤 充弘 4段
(大将) 斎藤 俊 3段	引分	山本 宜秀 4段
(代表) 吉永 慎也 4段 ●	G・S判定	立山 広喜 4段

先鋒戦。両者左組み。一回りも二回りも小柄な西山が間合いを取ってよく動き、組み際の左体落で会場を沸かせる。立山は技が出せず、巨体を利して押し込むだけ。そんな立山に2分7秒指導1。終盤になって立山に上から圧迫された西山にも3分58秒指導1。その後は西山の動きが戻り、そのまま時間。

次鋒戦。武田左組み、石井右組み。上背で勝る石井が奥襟を引き付け前に出る。武田は組み際の体落、背負投で攻めるが石井には通じず。石井、場外際に追い込んで大外刈で2分49秒に技あり。3分9秒には防御体勢を続けた武田に指導2。そして、残り43秒、石井は武田が背負投に入ろうとするところ右足で大きく払って一本。

中堅戦。右組み同士の両者の対戦。上背で勝る森田が両襟を引き付け前に出る。片淵は機敏な動きで森田を攪乱するが、共に決定打とならず。3分34秒には森田に指導1が与えられる。その後は両者に動きがなく引分。

副将戦。両者右組み。体格で圧倒する佐藤が奥襟を引き付け、圧力を掛ける。開始早々、吉永の巴投が潰れ、佐藤が上から押し掛かり、寝技で攻めるが、吉永は足をからめて危地を脱する。1分42秒、吉永に偽装攻撃で指導1。2分19秒には防御姿勢で指導2。この時、聞くに堪えない野次に対し、ジュリーから選手控えの日本中央競馬会関係者に退場勧告が出されて、主審が一名の退場を命じる。会場は騒然となる。

3分14秒には指導3。その後、絶体絶命、後の無くなった吉永が一転反撃に転じ、3分34秒、佐藤の右腕を抱えて左背負投で佐藤をうつ伏せにし、伏した佐藤を裏返して崩袈裟固(枕袈裟固)に押さえ込むと会場の興奮は頂点に達する。吉永、起死回生の一本勝でタイに持ち込む。

大将戦。斎藤右、山本左のケンカ組手。組手争いから互いに内股を繰り出すが決め手なし。3分18秒、山本に指導1。そのまま時間となり勝負の決着は代表戦に持ち込まれる。

代表戦。吉永右組み、立山左組み。吉永は間合いを取り早い動きから背負投、

巴投を仕掛ける。立山も片襟から内股を掛けるが共に効果なく引分。

3分間のゴールデンスコアに入ってから同様の展開ながら、吉永が背負投で立山を大きく浮かせる。その直後の1分4秒に立山に指導1が与えられる。その後、2分39秒偽装攻撃の吉永に指導1。そのまま時間となり旗判定となる。審判3人の判定は赤旗3本、吉永に上がる。吉永が主将の意地で自軍の勝利を引き寄せた。